



解禁日時	ラジオ・テレビ・インターネット	12月22日(月) 17:00
	新聞	12月23日(火) 朝刊

17:00 スポーツ庁同時発表
岐阜県政記者クラブ加盟社各位

令和7年12月17日(水) 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
体育健康課	学校体育係	山田	内線 8717 直通 058-272-8768 FAX 058-278-3542

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 岐阜県の調査結果について

国では全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るため、全国の小学校5年生及び中学校2年生を対象とした悉皆調査を毎年実施している。このたび、岐阜県公立学校分を下記のように取りまとめましたので、お知らせします。

記

1 実技に関する調査結果〔※数値や結果は公立学校のみ。詳細は別紙【参考資料】のとおり〕

(1) 結果の概要

- ・小学校の体力合計点の全国順位は、令和4年度以降、3年連続して上昇。
- ・令和7年度の小学校女子及び中学校の体力合計点は、全国平均以上。
- ・令和7年度の体力総合評価A・B群の児童生徒の割合は、小中学校ともに全国に比べ高い。
- ・令和7年度、小中学校ともに、全国平均値と同等か平均を上回った種目は、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「ボール投げ」の6種目。

(2) 8種目の体力合計点の県平均値と全国順位

区分		H30		R1		R3		R4		R5		R6		R7	
		合計点	順位	合計点	順位	合計点	順位	合計点	順位	合計点	順位	合計点	順位	合計点	順位
小5	男子	54.00	27	53.35	27	51.80	37	51.49	40	52.21	36	52.24	32	53.07	24
	女子	55.98	26	55.40	30	54.30	33	53.99	35	54.19	31	54.01	24	54.57	18
中2	男子	42.76	24	42.10	20	41.49	28	41.62	20	41.59	34	42.51	17	42.85	22
	女子	51.39	15	51.01	14	48.84	31	47.85	24	47.90	17	48.33	17	48.15	19

※ 体力合計点の算出…8種目の得点(10点満点)を合計する。

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、調査を中止した。

2 今年度の主な特徴(前年度比)

(1) 実技テストの状況(参考資料P1、2、3、4)

- ・体力合計点が、小学校及び中学校男子は向上し、中学校女子はやや低下した。
- ・小学校男子は、すべての種目の平均値が向上し、小学校女子は、「立ち幅跳び」以外の種目で平均値が向上した。
- ・中学校男子は、「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」「ボール投げ」の種目の平均値が向上し、中学校女子は、「上体起こし」「長座体前屈」の種目で平均値が向上した。
- ・小学校は、総合評価A・B群の割合が増加し、D・E群の割合が減少した。

(2) 1週間の総運動時間（参考資料P5）

- ・中学校男子は、1週間の総運動時間が増加した。

(3) 生活習慣等に関わる項目（参考資料P5、6、7）

- ・中学校は、「平日における学習以外のスクリーンタイムの視聴時間が2時間以上」の生徒の割合が増加し、平成30年度以降で最も高くなった。
- ・小学校及び中学校男子は、「朝食を毎日食べる」児童生徒の割合が増加した。
- ・小中学校ともに、「睡眠時間が8時間以上」の児童生徒の割合が増加した。
- ・小学校は、肥満傾向の児童の割合が減少した。

(4) 体育・保健体育の授業に対する意識（参考資料P7、8）

- ・中学校男子は、「運動が好き」と回答した割合が増加した。
- ・小学校男子は、「体育が楽しい」と回答した割合が同程度であった。

(5) 考察

【顕著な結果】

- 小学校の体力合計点の全国順位は、令和4年度以降、上昇し続けている。
- 令和7年度の中学校2年生は令和4年度の小学校5年生と同じ調査対象であり、その全国順位を比較すると、大幅に上昇している。

【分析】

- ・令和4年度から本県として「岐阜県体力向上プロジェクト検討会」を立ち上げ、これまで実施していた「チャレンジスポーツinぎふ」に併せ、「小中学校の体育授業にアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）^(＊1)の積極導入」「ぎふっこダンスフェスティバル」を開始。特に、小学校体育授業にACP等の運動遊びを積極的に取り入れ、運動に没頭する時間を確保するとともに、休み時間においても、体育授業で学習した運動遊びが広がったと考えられる。
- ・中学校では、「体を動かすことの楽しさ」「技や動きができるようになることの楽しさ」を大切にした授業実践を行ったり、生徒が「体育の授業が楽しい」「運動が楽しい」と思う、授業づくりのための教員研修を継続したりして実施していることが要因の一つと考えられる。

3 今後の体力向上に向けた取組

(1) 授業における取組

- ・アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）^(＊1)等の「運動遊び」を積極的に導入する。
- ・運動に苦手意識を感じている児童生徒に対して「体育が楽しい」と感じる児童生徒を増やすための手立てを工夫する（ICTの効果的な活用等）。

(2) 授業外における取組

- ・チャレンジスポーツinぎふ^(＊2)を活用推進する（取組事例紹介とHPリニューアル）。
- ・ぎふっこダンスフェスティバル^(＊3)を活用推進する（取組事例紹介）。

(3) 教職員への周知及び研修

- ・大学教授及び小中学校の教員による「体力向上プロジェクト検討会」を実施し、児童生徒の体力の実態を把握するとともに、効果的な体力向上に関する取組を検討する。また、体力向上を図りたい学校に対し教員を派遣し、教職員向けの出前授業や講習会を実施することで、指導力の向上を図る。
- ・各地区で体育担当教員や体育主任などを対象にした講習会や研修会を実施し、児童生徒の体力の状況を周知するとともに、自校の実態を正確に把握し課題を明確にした上で、体育・保健体育の具体的な授業づくりや運動時間を確保するための方策を立て、体力向上を推進する。

* 1 アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）

- ・日本スポーツ協会が、子供たちの発達段階に応じて身に付けておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムとして開発したもの。

* 2 チャレンジスポーツinぎふ

- ・8の字跳びやチームジャンプ、ボールパスリレーなどの運動を、学級や学年、又は学年の異なる集団で取り組み、記録をWEB上で競い合う。それらの運動を通して、仲間と運動することの楽しさや記録向上の喜びを味わわせ、主体的に運動に親しむ習慣を育み、児童生徒の体力向上を図る。

* 3 ぎふっこダンスフェスティバル

- ・児童生徒が、岐阜県ゆかりのアーティストの楽曲を活用してダンスを創作するという活動を通して、仲間と作品を創り上げる楽しさや運動の楽しさを味わうことで、運動に親しむ資質・能力を育む。

4 調査の概要

(1) 調査の目的

- ①国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象とする児童生徒

各国公立学校以下の学年の全児童生徒を原則とする。

①小学校調査

小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年

②中学校調査

中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

ただし、特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害の種類や程度等を考慮して、参加の是非を適切に判断

(3) 調査事項

①児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査

(ア) 小学校調査

〔8種目〕握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(イ) 中学校調査

〔8種目〕握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走(男子1500m、女子1000m)、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択

イ 質問紙調査

・運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

②学校に対する質問紙調査

・子供の体力向上に係る取組等に関する質問紙調査

③教育委員会に対する質問紙調査

・子供の体力向上に係る施策等に関する質問紙調査

(4) 調査実施日(実施期間)

令和7年4月から7月末までの期間

(5) 調査校数及び人数〔※参加学校数には、実施可能な児童生徒が在籍する特別支援学校を含む〕

		参加学校数	参加人数
小 5	全 国	18,656校	約92万人
	岐阜県(公立学校)	344校	14,491人
中 2	全 国	10,000校	約86万人
	岐阜県(公立学校)	181校	14,424人